





「日本専門家ワークショップ2013」報告

Two Intensive Days of Professional Exchange – Report on the Japan Specialist Workshop 2013





Ursula Flache ドイツ・ベルリン国立図書館東アジア部

EAJRS, Paris, 2013年9月21日



シンポジウム「なぜ今、海外日本研究支援か?」

日時:2013年2月20日(水)

午後1時30分~午後5時30分

会場:国立国会図書館東京本館・新館講堂

聴衆:150人









JSW2013の参加者の記念写真









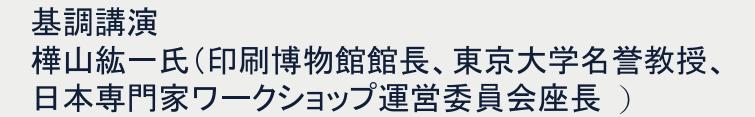
開会の挨拶 大滝則忠氏(国立国会図書館館長)











- ●近年の新しい研究傾向(歴史・古典→クールジャパン・ ポップカルチャー/アジアの中の日本)に対応
- •「今だからこそ」新しい発想の支援の必要性









成果紹介(1)「日本専門家ワークショップとは何か?」 司会者:スヴェン・サーラ氏



小出いずみ氏 (JSW運営委員、渋 ウルズラ・フラッへ 業史研究情報セン ター長)

Ursula Flache 沢栄一記念財団実 (JSW2011参加者、 Staatsbibliothek zu Berlin, Germany)

八田綾子氏 (JSW2012参加者、 Monash University Library, Australia)

Mr. Sven Saaler スヴェン・サーラ氏 (JSW運営委員、 上智大学准教授)



成果紹介(1)「日本専門家ワークショップとは何か?」 ウルズラ・フラッへの報告 (JSW2011参加者、Staatsbibliothek zu Berlin, Germany)

- ▶ドイツでは日本情報専門家の正式的な教育はない
- •ドイツに於けるone person library=ジェネラリスト
- 日本の同業者=スペシャリストからの知識伝達
- 研修の重要性









成果紹介(1)「日本専門家ワークショップとは何か?」 八田綾子氏の報告

(JSW2012参加者、Monash University Library, Australia)

- 日本を含むアジアの研究者(日本語不可)への対応
- 研修でのネットワーク構築の重要性
- 調査結果はEast Asian Library Group of Australiaのニュースレターに紹介した

http://www.ealrga.org.au/newsletter1207/1202_hatta.pdf







現状報告「海外日本研究支援の現状と課題」 清水順一氏の報告

(国際交流基金日本研究・知的交流部長)

現状 海外の日本研究機関への支援

研究者への日本研究フェローシップ

日本研究ネットワークの強化

課題 外国日本研究者数增加

研究対象: 伝統的な人文科学→社会科学・

ポップカルチャー

地域研究よりディシプリンからのアプローチ

日本研究からアジア地域研究への動き









現状報告「海外日本研究支援の現状と課題」 江上敏哲氏の報告

(国際日本文化研究センター情報管理施設資料課資料利用係長)

現状

外国研究者・研究機関との共同研究プロジェクト・シンポジウム 外国人研究者

日文研図書館:日本関係文献コレクション(外国語を含む) データベース提供

課題:日文研図書館としての協力活動の強化



ROSSASIA





現状報告「海外日本研究支援の現状と課題」 林理恵氏の報告 (国際文化会館図書室長)

現状 講演会・研究会・会議の開催

図書室:日本関係文献コレクション

研修事業(日本専門化ワークショップなど)

課題 比較的アプローチ研究の増加

日本情報専門家の教育

海外研究者との交流を強化







現状報告「海外日本研究支援の現状と課題」 佐藤従子氏の報告 (国立国会図書館総務部長主任参事)

支援活動 外国図書館への文献貸し出し・複写・レファレンスサービス デジタル化所蔵資料のインターネット上提供 書誌レコード・典拠データの国際交換 研修事業(日本専門家ワークショップなど)



CROSS ASIA





成果紹介(2)「日本専門家人材育成会議について」 ポイント

- ●日本に於けるデジタル化 の遅れ(特に電子書籍)
- ●経済的な問題及び政権交代の研究への影響
- •同じ問題に向き合う日本研究者と日本情報専門家
- ●データベースのためのデータベースの必要性

小出いずみ氏の報告 (JSW運営委員、渋沢栄一記念 財団実業史研究情報センター長) スヴェン・サーラ氏の報告 (JSW運営委員、上智大学准教授)









座談会「海外日本研究支援は今後どうあるべきか」

司会者:樺山紘一氏 (印刷博物館館長、 東京大学名誉教授)



Mr. Harald Fuess ハラルド・フース氏 (ドイツ・ハイデルベルグ大学教授) 小松和彦氏 (国際日本文化研究 センター所長)







座談会「海外日本研究支援は今後どうあるべきか」

ハラルド・フース氏の報告「ヨーロッパにおける日本研究」 (欧州日本研究協会前会長(EAJS)・ハイデルベルグ大学教授)

日本学者数の増加 課題 若い研究者の教育 国際協力の強化(例:ダブルディグリー) 経済的な研究支援











- 1日本研究者と日本情報専門家との関係
- 2海外日本研究の新しい傾向
- 3日本語による研究成果の海外発言
- 4日本に於けるデジタル化の遅れ
- 5 一般人を視野に入れた情報提供



司会者:樺山紘一氏

小松和彦氏

ハラルド・フース氏

大滝則忠氏





閉会の挨拶 降籏高司郎氏(際文化会館常任理事)

→ 今後のチャレンジの対応に日本国内及び海 外の研究機関の新たな協力・連携の要求







お礼

国際文化会館 International House of Japan 国立国会図書館 National Diet Library 国際交流基金 The Japan Foundation

参考文献

関西間図書館協力課

「なぜ今、海外日本研究支援か?一日本専門家ワークショップ」 国立国会図書館月報 第627号2013年6月 p. 24~27

ASIA

関西館図書館協力課研修交流係 「シンポジウム『なぜ今, 海外日本研究支援か?』 <報告>」 http://current.ndl.go.jp/e1408



江上敏哲のブログegamiday 3:

「(メモ)日本専門家ワークショップ2013、その6~7」

http://egamiday3.seesaa.net/article/331583280.html http://egamiday3.seesaa.net/article/331589268.html